

# 生命のにぎわい通信

第77号：令和8年(2026年)1月 発行

発行：千葉県環境生活部自然保護課  
生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2  
(千葉県立中央博物館内)

TEL:043-265-3601 FAX:043-265-3615

URL:<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index>

E-mail:[monitor@bdcchiba.jp](mailto:monitor@bdcchiba.jp)

## たくさんの生き物を守り育てる、干潟

干潟は、陸から海へと環境が大きく変わる場所です。また、陸からの豊富な栄養が集まる場所でもあります。

干潮のたびに露出する遠浅の砂や泥の海底は、潮が引いた後も海水を含んでいます。このため、甲殻類やゴカイの仲間、ハゼなどの魚類、二枚貝や巻貝など、たくさんの種類の生き物が暮らしています。

そして、この豊富な生き物を糧とする水鳥にとっても、干潟は貴重な生息場所となっています。一年を通して生活する留鳥はもちろん、春に南から繁殖のためにやってくる夏鳥や、北の地で繁殖を終え、冬を過ごすために飛来する冬鳥、そしてシベリアやアラスカで繁殖し、オーストラリアなどで冬越しするために春と秋に立ち寄る旅鳥などにとって、干潟はなくてはならない場所なのです。

小さな体で海を越え、気の遠くなるような距離を飛ぶ鳥たちにとって干潟は憩いの地であり、また、目的地までの命がけの旅を支える、栄養補給の場でもあるのです。

令和7年12月6日に、生命のにぎわい調査団現地研修会を船橋市の三番瀬で開催しました。ふなばし三番瀬環境学習館のご協力のもと、干潟の生き物や冬鳥などをたくさん見つけることができました。

今回出会った生き物たちの写真を、過去の皆さまからの投稿も含めてご紹介します。写真上は団員番号です。

(千葉県生物多様性センター 松坂 麻美)



a0708

ミヤコドリ



a0389

シロチドリ



a0389

ダイゼン



a0389

コメツキガニ



a1481

オキシジミ



a0389

ニホンスナモグリ



a1481

マサゴハゼ



a0389

ミュビシギ



a0389

ハマシギ

参考文献：山階鳥類研究所著 足輪をつけた鳥が教えてくれること 山と溪谷社 (2024)

風呂田利夫・多留聖典著、中村武弘写真 干潟生物観察図鑑 誠文堂新光社 (2016)

最新の生物多様性に関する情報や各種講習会の情報は当センターと調査団のホームページをご覧ください

調査団:<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index> 生物多様性センター:<https://www.bdcchiba.jp>

# 古典文学と里山の生き物たちの世界

## 第三十一回 タチツボスミレ

Viola grypceras スミレ科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何をみていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラムW杯日本代表詩人の大島健夫が、生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

春は、スミレの花の季節です。そのスミレの中でも、人里近くで最も普通に見られるのがタチツボスミレでしょう。

北海道から沖縄まで幅広く分布し、林縁や道端にかわいらしい薄紫の花を咲かせるこのスミレは、昔から、あまたの和歌に詠まれてきました。本当に星の数ほどありそうな「つぼすみれ」の歌のうち、私が個人的に最も好きなのが、小倉百人一首の撰者として知られる藤原定家の、この一首です。

ふるさとと 荒れゆく庭のつぼすみれただこれのみや 春をしるらん

定家が生きた時代は、源平の戦いから鎌倉初期にかけての、戦乱と激動の時代でした。

人影が消え、荒廃した故郷の風景。その中でもひっそりと咲いてその色彩で春を知らせるタチツボスミレ。定家の自撰歌集『拾遺愚草員外』に収録されている、杜甫の「国破れて山河あり」にも似たこの歌には、たった31音の中に、人の営みのはかなさ、生命の美しさの全てがこめられています。

「歌聖」とまで呼ばれ、おそらく日本の歴史上もっとも有名な詩人である藤原定家は、病弱であったといえます。しかし、圧倒的な暴力が全てを支配するこの時代を、肉体的な力を持たない病弱な身で生き抜くには、どれだけの人間としての強さが必要だったことでしょうか。定家の事績を辿ると、彼が、誰に対しても決して媚びることがなく、地位や身分によって態度を変えることもなかったことがわかります。歌のことで意見が合わなければ、時の上皇とさえも揉め事を起こしています。自分を貫き続けた定家は、この時代のほとんどの人よりも長く、80歳まで生き、歌をつくり続けたのです……。



画 齋藤倫瑠

皆様、長きにわたって連載をお読みいただき、本当にありがとうございました。

この『古典文学と里山の生き物たちの世界』は、今回をもって幕とさせていただきます。

どんなに冬が厳しくても、春は必ずやってきます。

どうか皆様に訪れる春が、良いものでありますように。

無断転載はおやめください。

### <これからの季節に観察できる生き物>

○調査対象種：ニホンイタチ、キジ、アカガエル類（卵）、  
トウキョウサンショウウオ（卵）

○調査対象種以外

\*渡りのシギ・チドリ類、コガモやトモエガモなどの  
カモ類

\*ホソミオツネントンボやカメノコtentウなど越冬  
する昆虫

調査対象種以外は種の確認が難しいため、できるだけ  
写真の添付をお願いします。

### 「生命のにぎわいフォーラム」のご案内

生命のにぎわい調査フォーラムを開催します。調査団員の活動報告や、写真コンテストを行いますので、多くの方のご来場をお待ちしています。

日時：令和8年3月7日（土）午後1時～4時

場所：千葉県立中央博物館 講堂

定員：先着100名・参加無料（事前登録が必要です）

**同時開催！ 生命のにぎわい写真コンテスト**

詳細は当センターのホームページやチラシをご参照ください。